

ことばの花束

岩波文庫の名句 365



岩波文庫編集部編

ことばの花束^{はなたば}

定価はカバーに表示してあります

岩波文庫別冊 5

1984 年 12 月 17 日 第 1 刷発行
1994 年 7 月 25 日 第 23 刷発行

編 者 岩波文庫編集部

発行者 安江良介

発行所 株式会社 岩波書店
〒101-02 東京都千代田区一ツ橋 2-5-5

電 話 案内 03-5210-4000 営業部 03-5210-4111
文庫編集部 03-5210-4051

印刷・三陽社 カバー・精興社 製本・永井製本

ISBN4-00-350005-9

Printed in Japan

岩 波 文 庫

35-005-1

こ と ば の 花 束

—— 岩波文庫の名句 365 ——

岩波文庫編集部編



岩 波 書 店

読者へ

岩波文庫の名著名作から、心ひかれる印象ぶかいことばを選びだして編んだアンソロジー『ことばの花束』をおとどけます。

ことばを選ぶにあたり、最大限八〇字前後の章句であることを基準としました。また、文の途中を省略して引用しないこと、および前後の脈絡から独立して読むことのできる文に限定することを心がけました。ただ、作品の一部分の引用を旨としましたから、俳句・短歌は今回対象からはずしてあります。

右の作業をすすめるうえで、各種名言集や、*Bartlett's Familiar Quotations*など定評ある海外の引用句辞典も参考にしました。

引用句にはそれぞれ出典を明記してあります。書名のあとに示した数字が、その引用句の載っている岩波文庫のページです。

こうしてここに選ばれた三六五の章句は、広い古典の世界のほんの一部であるにすぎません。けれども、この小さな一冊の書物が、無限の豊かさを秘めた古典の宝庫へとわけいつてゆく、きっかけとも手がかりともなるなら、これほどうれしいことはありません。

一九八四年二月

岩波文庫編集部

目次

読者へ

I 世は定めなきこそ――

II 悪魔でも聖書を引くことができる――

III これは人類普遍の原理であり――

IV 旅に出さえすると――

V 二回この世に生まれる――

書名索引

著作者名索引

I
世は定めなきこそ――

世は定めなきこそいみじけれ。

1 兼好法師

『新訂 徒然草』 26

秘すれば花なり、秘せずば花なるべからず。

2

世阿弥

『風姿花伝』 103

五十ばかりより、そろ／＼仕上げたるがよきなり。

山本常朝

『葉隠』(上) 88

その内は諸人の目に立身遅きと思ふ程なるが、のうちあるなり。

3

文明とは道の普く行はるゝを賛称せる言にして、

西郷隆盛

『西郷南洲遺訓』 88

宮室の壮嚴、衣服の美麗、外觀の浮華を言ふには

4

非ず。

文明とは人の身を安樂にして心を高尚にするを云ふなり、衣食を饒ゆたかにして人品を貴くするを云ふなり。

5

福沢諭吉
『文明論之概略』 54

たとい政治家が時と場所とをわきまえずに施政したために、いく千万の人間が禍わざわいをこうむったとしても、その跡を吟味した学者は、きつとこう言うでしょう。あれは、ああならざるを得ぬ理由があつて、ああなつたのだ、と。

6

中江兆民
『三酔人経綸問答』 8



ボデー マインド スピリット
肉体と知能と靈魂、これら三のものの自然的発達

をば維持して行くがため、言い換うれば人々の天
分に応じてこれら三のものをばのびるところまで
のびさして行くがため、必要なだけの物資を得て
おらぬ者があれば、それらの者はすべてこれを貧
乏人と称すべきである。

7

河上肇
『貧乏物語』
一

人生には笑ってよいことが誠に多い。しかも今人^{こんじん}はまさに笑いに餓^うえている。

8

柳田国男
『不幸なる芸術・笑の本願』 53

西洋の風呂は事務^{じむ}的で、日本の風呂は享樂^{きやうらく}的だ。

9

和辻哲郎
『古寺巡礼』 32

かのターヘル・アナトミアの書にうち向ひしに、誠に艫^ろ舵^{かじ}なき船の大海に乗り出だせしが如く、茫^{ぼう}洋^{よう}として寄るべきかたなく、たゞあきれにあきれて居たるまでなり。

10

杉田玄白
『蘭学事始』 37-38

人に百歳の寿なく、社会に千載せんざいの生命なし。

11

徳富蘇峰

『吉田松陰』 26

上流は知りませんが中ぐらかそれ以下の武士の家では、お客が来ても一々お菓子を出すということはありません。お茶だけです。どこの家でも平生お菓子のある家はなく、第一、菓子屋というものがそうありませんでした。お客といえば、お客に座ぶとんを出すこともなく、座ぶとんというものは知りませんでした。

12

山川菊栄

『武家の女性』 74

イギリスでは近代教育のために子供から奪われつつあるひとつの美点を、日本の子供たちはもっている。わたしはいいたい。すなわち日本の子供たちは、自然の子であり、かれらの年齢にふさわしい娯楽を十分に楽しみ、大人ぶることがない。

13

オールコック
『大君の都』(下)
226



当時は一般の人々は時計を持たなかったし、また時間の厳守ということもなかったのである。二時に招かれたとしても、一時に行くこともあり、三時になることもあり、もっとおそく出かける場合もよくある。

14

アーネスト・サトウ
『一外交官の見た明治維
新』(下)

日本人は素描をするのが速い、非常に速い、まるで稲妻のようだ、それは神経がこまかく、感覚が素直なためだ。

15

『ゴッホの手紙』(中) 105

人の患は、好んで人の師となるにあり。

16

『孟子』(下) 52

知ることがむつかしいのではない。いかにその知
っていることに身を処するかがむつかしいのだ。

17

司馬遷
『史記列伝』(一) 31

ただ誹^{そし}られるだけの人、またただ褒^ほめられるだけ
の人は、過去にもいなかったし、未来にもいない
であろう、現在にもいない。

18

『ブッダの真理のことば・
感興のことば』 卅

親鸞は弟子一人ももたずさふらふ。

19

唯円
『歎異抄』 50